

遠族の友

発行所
 (財)滋賀県遺族会
 滋賀県大津市におの浜
 4丁目2-34
 滋賀県遺族会館
 電話 (077) 522-7227
 FAX (077) 522-7233
 発行責任者
 滋賀県遺族会長
 松井 尚之

平和祈願と慰霊の祭典

滋賀県戦没者追悼式

8月3日外気温33度、夏空に薄雲がところどころ広がる膳所公園内の会場。各団体より手向けられた供花が彩りを添える。英霊碑前の巨大なテントの中は、県下各地より参拝した遺族関係者たちでびっしり。さらに熱気が溢れる。来賓の方と合わせ1,000人近くの参列者が英霊

の御前に心を馳せ、静寂のなか10時30分開式の言葉が会場に響く。第66回目の式典である。黙祷に続き滋賀県遺族会松井尚之会長の式辞。「3万有余みたまの慰霊の責務の重さを自覚し、県民の平和の先頭に立つことを誓います」と慰霊と恒久平和に向けた挨拶があった。



代表による献花
 (写真右から
 戦没者の妻、遺児、
 孫曾孫、兄弟姉妹)

大津市仏教会
 僧侶読経と参列
 者の焼香

嘉田由紀子滋賀県知事、家森茂樹滋賀県議会議長、目片信大津市長より追悼の言葉をいただく。「英知と力を結集し、世界平和に寄与する」との平和宣言のあと、役員、参列者代表、来賓の献花で前半を終えた。引き続き、大津市仏教会法中様23人による追悼法要。参列者たち暑さに緊張の糸が切れたのか私語が目立ち、司会者より注意を受ける一幕も。みたまよ安らかに、と全員焼香で幕を閉じた。

献花に次世代を担う中学生の姿があった。彼らが恒久平和のための願いを引き継ぎ活動してくれることを願う。
 (広報 谷口晋子)

不戦の決意込めりレー

湖南・甲賀・日野・竜王へ

第30回を迎えた「慰霊と平和祈願りレー」は、66回日の「長崎原爆の日」にあたる8月9日に、



東日本大震災の跡の復旧・復興が国民的課題となるなかで行われた。朝から陽射しの厳しいなか、滋賀県遺族会松井尚之会長の

東日本大震災の跡の復旧・復興が国民的課題となるなかで行われた。朝から陽射しの厳しいなか、滋賀県遺族会松井尚之会長の

松井尚之行進団長から嘉田由紀子知事に要望書を手渡す

甲賀市水口庁舎到着の行進団

族会松井尚之会長を団長とする約170人が県内各地よりバス5台余りで滋賀県庁前へ集結。午前9時半から県庁前玄関

で出発式。松井団長から嘉田由紀子滋賀県知事へ要望書を手渡し、嘉田知事ならびに家森茂樹滋賀県議会議長の激励の言葉をいただいた後、大津駅前まで行進。バスに乗り継ぎ、湖南市、甲賀市(おにぎり昼食)、日野町、竜王町と巡り、彦根駅前から滋賀県護国神社へは午後4時過ぎに到着した。

父達が過酷な戦闘環境で果てられたことを思えばさほどではない」と締められた。行進訪問の各市町では、首長をはじめ議長や行政の幹部職員と地域の遺族会員の歓迎と見守りの中、地元遺族会毎の要望書を手渡し、首長・議長の激励を受け、各首長と松井団長が友好の固い握手を交わした。



大行進出発前の國松善次氏と長浜市遺族会のみなさん

今回の行進は、従来の実績をベースに企画運営された。し

かし、不戦の決意と恒久平和を求める遺族会の活動すべてが、行政、遺族会両者相まった県民活動として進められるよう望まれる。遺族会としては、30回を超えた行進の趣旨を今一度すべての会員に周知徹底と協力を願って、事業の推進と組織の維持をすべくである。
 (広報 田中清一)

「がんばろう日本」を掲げた灯で境内が埋め尽くされた。13日早朝、各市町から献灯短冊吊り作業に集まり、昼前にはすべての準備を整えた。夕刻、滋賀県遺族会顧問國松善次氏の「自転車でも県内忠魂碑等戦没者慰霊碑の参拝完了報告式」が行われた。午後6時拜殿で「みたま祭り奉告祭」を挙行。引き続き点灯式で一斉に明かりが灯され、辺りには厳かな雰囲気。戦没者の霊を慰める三日間が

参道脇では金魚すくいや出店もあり繁盛していた。

15日は拜殿で終戦記念式典を行い、正午、日本武道館の全国戦没者追悼式にあわせて、一分間の黙祷を捧げ冥福を祈った。その後社務所で往時を偲びおにぎりや味噌汁の直会、夕刻には県下戦没者慰霊祭が行われた。近年にない猛暑のなか大勢の参拝者があり、盛況裏のうちにも厳かな英霊へのお慰めとなった祭りであった。
 (広報 雨森久昭)

父の歩んだ道を偲んで 沖繩大行進

隼瀬丈太郎



戦後66年「慰霊の日」6月23日沖繩大行進に8人が県代表として参加した。戦没者が降りしきる雨や砲弾の中、杖を突き、肩を借り悪路の中で後退を余儀なくされ、血に染まった激戦地南部でどんな思いを抱いて散華されたかを追体験をし、亡き御霊との語り合いの日として戦争の悲惨さを再認識し、平和希求運動に繋げていきたいとの切ない願いで参加した。私は第2回の行進(昭和38年当時)は距離25キロ)に参加。その日飲まず、食わず、吸わずの三禁を実行。特に水の尊さを知り、今回も自宅の地下水を持参、行進中献水しながら涙と汗にまみれ、父と

語り、父の足跡をいくつも踏み込んだことと思う。第1日、受付、前夜祭、第一部の式典の中で献鐘者に選ばれその任を果たす。第二部は琉球古典音楽と舞踊等が厳粛に演じられた。第2日、平和祈願大会全国147人沖繩県民2,000人で摩文仁まで8・5キロ猛暑の中行進。途中温かい接待を受けながら追悼式に臨む。参列者は「二度と戦争を起してはいけない」「子や孫に平和な世の中を継ぎたい」「米軍基地はいらない、早く撤去して」などと求めた。菅首相は二度目の参列。仲井真知事が平和宣言、仲曾根

遺族会長は「戦争につながるいかなる行為も容認できない」と訴えた。第3日、長浜遺族会5人で行動。世界遺産今帰仁城跡、沖縄美ら海水族館その輝き神秘を体感。そして父眠る魂魄の塔へ。墓は花や線香供物で埋まっていた。私は舌々正信偈を誦経、父に出逢いこの年まで見守ってくれ唯々感謝感激。第4日、玉綾と首里城、玉泉洞を訪ねた。戦後発見された玉泉洞、戦時中発見された命を失うことはなかったらう。最後に健康などが許されたら第55回の大行進にぜひ参加したいと願っている。

まごころの灯り 境内を飾る 5200灯 第35回みたま祭り

今日の平和と繁栄の尊い礎となられた県下三万余柱の英霊をお慰めするためのみたま祭りが、8月13日から15日まで彦根市の滋賀県護国神社で盛大に開かれた。回を重ねること35回



「がんばろう日本」を掲げた灯で境内が埋め尽くされた。13日早朝、各市町から献灯短冊吊り作業に集まり、昼前にはすべての準備を整えた。夕刻、滋賀県遺族会顧問國松善次氏の「自転車でも県内忠魂碑等戦没者慰霊碑の参拝完了報告式」が行われた。午後6時拜殿で「みたま祭り奉告祭」を挙行。引き続き点灯式で一斉に明かりが灯され、辺りには厳かな雰囲気。戦没者の霊を慰める三日間が

参道脇では金魚すくいや出店もあり繁盛していた。

15日は拜殿で終戦記念式典を行い、正午、日本武道館の全国戦没者追悼式にあわせて、一分間の黙祷を捧げ冥福を祈った。その後社務所で往時を偲びおにぎりや味噌汁の直会、夕刻には県下戦没者慰霊祭が行われた。近年にない猛暑のなか大勢の参拝者があり、盛況裏のうちにも厳かな英霊へのお慰めとなった祭りであった。
 (広報 雨森久昭)

「近江の塔」

沖繩巡拝へ

県議会から5人参加

7月2日から4日まで、滋賀県遺族会松井尚之会長を団長とした58人に、渡邊光春滋賀県健康福祉部長、家森茂樹滋賀県議会議長や県議会



梯梧之塔追悼式典で黙祷するみなさん
(写真前列左から 松井県遺族会長、家森県議会議長、山田県議、石田県議、高木県議、富田県議)

議員など8人の来賓を迎え、沖繩「近江の塔」滋賀県平和祈念・沖繩戦没者追悼式典と戦跡慰霊巡拝を実施した。

「近江の塔」での追悼式典には地元沖繩県から仲宗根善尚沖繩県遺族連合会会長ら5人の来賓参加をいただいた。

沖繩への慰霊巡拝は毎年実施されておられ、担当委員会の努力もあ

感動の富家食堂

次世代活動委員会
副委員長 木村正昭

次世代戦跡訪問研修は今年記念すべき10年目で、滋賀県遺族会大長弥宗治副会長を団長に県遺族会役員8人、次世代参加者40人の総勢48人が3月28日鹿児島県に向けて出発した。

大阪南港から乗船した「さんふらわ」では、バス車中で編成した班別に集合し結団式を行う。団長の挨拶に続き参加者全員が自己紹介、全日程説明のあと、夕食バイキングで舌づつみ、各船室の就寝までの自由時間は船内の探検遊び。翌29日朝9時鹿児島県志布志港に到着。いよいよ鹿児島県内の戦跡訪問研修開始。

バスで桜島港、鹿児島港を経由し知覧へ。知覧特攻平和会

館で戦争と特攻兵について学習。私語もなくメモをとりながら、案内説明を熱心に見聞する姿に説明者からお褒めの言葉をいただく。会館内観音堂では例年通り厳かに慰霊祭を行い、英霊と東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げた。大長団長と参加者代表の森峻二君が追悼の言葉を述べ、全員が献花、鎮魂歌「ふるさと」を全員斉唱し、ご冥福を祈念した。

特攻兵の憩いの場



「富家食堂」を見学。特攻の母と慕われた鳥浜トメさんの孫の鳥浜明久さんから説明を受けた。遺品・写真と、特攻兵がホテルに変わり帰ってきたとして「ホテル」と命名され、今なお伝えられている

食堂は、参加者に大きな感動を与えた。30日は特攻の少年兵が万感の思いで拳銃の礼を捧げた開闢岳を望み、本土防衛沖繩決戦の基地「万世特攻平和祈念館」で学習。「維新ふるさと館」を経て鹿児島空港より空路伊丹空港、ふるさと滋賀に帰着した。

戦後66年を過ぎ、戦争のことを風化させることなく、参加した子どもたちが次の世代に語り継いでくれることを強く願う。

戦争から学ぶ 平和の大切さ

県立水口東中学校3年 第4班 曾羽あきほ

今まで学校での平和学習で戦争について学んできた。今回の旅は、目で見て、耳で聞き、五感を使って学ぶことができ、戦争や平和への理解を深める良い機会だった。また、この旅のさまざまな体験を通じて、私の特攻隊への

思いは大きく変わり、より深まった。彼らの遺書からは、両親への感謝と兄弟を気遣う心が伝わってきた。死ぬ直前でさえ、家族のことを思っていたのである。そんな大切な人を残して死ぬことは、さぞ無念だったと思う。しかし彼らは「お国のために、愛する人のために、愛する人のために、私たちが行かなければ！」と、命までも捧げた。現地の方々のお話を伺い、彼らのひとり一人にふるさとがあり、両親があり、愛する人がいる、という

ことを改めて実感した。今まで「特攻隊」と言うとき、特別な印象を持っていた。しかし沖繩の空へ散華した17歳の少年飛行兵も、私たちと変わりはないと思えた。つまり、彼らも私と同じように夢があり、将来への希望に満ちていた。戦争はそれらを一瞬で奪った。もしも戦争がなかったら、続いていたことであろう輝かしい未来さえも。

戦争から66年、痛ましい記憶が薄れつ

つある今、平和な社会を生きて、戦争を知らない私たちがこそが行動しなければならぬ。戦争という実際に起こった出来事から目をそらす、真正面から見つめ、ひとり一人の問題として考える必要があると思う。二度とあのような悲惨な戦争を繰り返してはならない。そのために、私はこれからも、戦争や平和について深く学び、考えていきたいと思う。そして、生きていくことに感謝したい。

意義深い初の「沖繩・近江の塔」追悼式典に参列

滋賀県議会議員 山田和廣

会議長のほか、今回参加いただきました県議会議員の山田和廣氏、石田祐介氏、高木健三氏、富田博明氏の4人から沖繩戦跡慰霊巡拝にかかわりました。紙面にだきました。紙面に分けて掲載いたします。(広報委員会)

7月2日から4日、滋賀県遺族会が開催した沖繩戦没者追悼式典に県議会議長と4人の議員が同行させていただきました。滋賀県の遺族会を代表する方々と一緒に



沖繩・梯梧之塔前に掲げた旗幕と献花台

地元地域での戦没者追悼式典には必ず参加させて頂いており、また、沖繩の近江の塔も何度か参拝させていただきました。滋賀県の遺族会を代表する方々と一緒に

込めて立派に飾り付けをされる作業を見ていて、大変な作業と頭の下がる思いがいたしました。先の大戦で、恒久平和を願う国のためまた家族の幸せを願う散華された英霊に對して、今を幸せに

生きる私たちの気持ちとお礼を、心を込めて追悼を申し上げてまいりました。大変有意義な巡拝であったと考えております。遺族会の皆様のご活躍を心から期待申し上げます。

沖繩を忘れず 世界平和を目指そう

滋賀県議会議員 富田博明

「J民族の怒りに燃える島沖繩よ……沖繩を返せ、沖繩を返せ」

当時私は20歳でした。職員組合で、働く労働者の皆様と共によく歌ったものです。そして、昭和47年5月、佐藤総理大臣が政治生命をかけて、唯一の被爆国である日本独自の政策であった非核三原則に則り「核兵器を持たず造

す。今、私たちが、本当に幸せな毎日を過ごせることは、先の太平洋戦争で日本のために命を犠牲にされた方々や、沖繩戦では本土の防波堤として若くは少年少女たちが数多く犠牲になられたお陰であることを忘れてはなりません。戦争の終結を決定された昭和天皇のお

言葉の中に、「国のため命をささげし人々のことを思へば胸せまりくる。」これは、「私はどうなるうとも国民の命を助けたらと思う、今日まで戦場にあつて戦死し、内地にあつては悲鳴に倒れた者やその遺族のことを思えば……この際私のできることは何でもする」とあります。

私も今回、沖繩戦没者追悼式に参加して、改めて遺族の方々の心中をお察し申し上げると共に、国旗国歌を重んじ世界平和を祈り世界の歴史に輝く日本であるよう遺族の一人として、次の世代に申し伝えてまいります。今後の滋賀県遺族会の益々のご発展をお祈りいたします。

らず持ち込ませず」で、沖繩から核兵器を撤去して核抜き本土並みの返還が行われました。

今や沖繩は、南国気分を味わえる風光明媚な場所です。若者の海のメッカとして、また、琉球文化をはじめとする歴史文化の宝庫として観光のスポットでもあります。

今や沖繩は、南国気分を味わえる風光明媚な場所です。若者の海のメッカとして、また、琉球文化をはじめとする歴史文化の宝庫として観光のスポットでもあります。

瀬戸川 庸(いさお)さん 米原市

激動の昭和 教壇に立つ



夫 順さんが出征して二年後、昭和19年11月28日に死亡告知書が当時村の収入役より届けられた。受け取った後、仏壇の前で泣き続けた。

しかし、「きつと生きてくる。いつかは帰ってくる」と信じ、二人の子どもを育て教壇に立ち続けた。

二人の吾が子と共に身はたとえ幾山河をへだつとも心は常に離れまじ (庸作)

さざなみ

お母さんを訪ねて

山田 富士子さん 近江八幡市

七夕祭りの辛い思い出



喜びました。

しかし、翌年7月、戦地で思ったマラリアが原因で他界。私の目の前で突然「ウーン」と声を発したときり逝ってしまいました。皮肉にもそれは「七夕まつりの日の出来事」でした。医師の診断書で戦病死となりましたが、ヨ

戦争が終わって一年近く経った昭和21年の6月、夫、耕一がニューギニアから復員し、家族一同大

光明 和香子さん びわ町

「えにし」「れんこん」

発行のお母さん



光明和香子さん。このお名前に懐かしさを覚えられる方も多いのではないでしょう。遺族会活動では厚生労働大臣表彰まで受けられるほどの活躍をされ、そののみならず、母子福祉に奔走されたり、民生委員として地域の福祉に長年貢献さ

と二人の子どもを抱え、母親として、時には父親として、寺のお守りに、生計の仕事、ひとり四役の仕事は若い身の上には過酷そのものでした。死を考えたこともあったとか。ただがむしやりに働いた



光明和香子さん著自伝書「れんこん」と句集「えにし」

れたり、その功績は輝かしい。しかし、夫を戦争で失い、戦争未亡人として、病弱な両親

と振り返られます。今では曾孫にも恵まれ、自分の趣味にお守りに、生計の仕事、ひとり四役の仕事は若い身の上には過酷そのものでした。死を考えたこともあったとか。ただがむしやりに働いた

村西 六とさん 愛荘町

懸命に生きた母と娘



私の父は昭和19年9月敗色濃厚なビルマ(ミヤンマー)で27歳という若い命を天国に召されました。父が招集されたとき、

死に母は働いて私を育ててくれました。小学校低学年から母を助けようと小柄だった私も出来ることは一生懸命手伝いました。

その母も今は94歳と父の寿命を頂かれたのか、自分の身の回りのことはこそこししながら、父の安らかな眠りのためお仏壇に手を合わせる毎日です。(愛荘町 村西慶子)

第38回 靖国神社参拝旅行のご案内

昇殿参拝のあと遊就館で「靖国の神々」として展示されている遺影をはじめ肉親の遺書や遺品などを、ゆったりと拝観。その後一路群馬県碓氷温泉へ。日本三奇勝のひとつ「妙義山」を眼前に、浅間山のふもと小諸で散策や、残雪映える北アルプス連峰を望む松代、長野でのひとときをお過ごし下さい。旅行日：平成24年3月4日(日)～3月5日(月)



ガダルカナル島慰霊祭で 父の遺影とともに岡 俊郎さん

「お父さん、お出会いに来ました。お父さん、お迎えに来ました。65年間の親不孝をお許し下さい」 叫んだとたんに胸の中から熱いものがどっとこみ上げ、父への呼びかけの後の言葉に言い詰まってしまいました。60有余年70年近い歳月、お父さんという言葉は口にするにはなかつたが、ここ南太平洋ソロモン諸島ガダルカナル島での慰霊巡拝、10月24日南太平洋方面戦没者合同慰霊祭にて力一杯叫んだ後、知らず知らずのうちに涙が頬をつたっておりました。

65年ぶりに叫んだ「お父さん！」 日野町 岡 俊郎

父との別れ、戦死の公報、遺骨を胸に抱いての出迎え、そして終戦。近所の兵隊さん皆さんの生還「何で僕の父さんだけ帰って来やへんのや」と叫んで涙を流したとき、夜中に母の忍び泣きの声で目を覚ました少年時代、あれやこれやが頭の中で回想し…。 「お父さん、母も96歳になりますが元

に見送られて京都伏見の連隊に入隊されたのでありました。入隊後しばらくして、外地に出陣されると云うので母と二人で連隊の面会室で会いました。甘い物の大好きな父は、母が夜なべして作ったおはぎを喜んで食べて外地に出陣されたのでありました。それが父との最後の出会いになったのであります。

地の人たちに出会って、戦後65年、このようにして慰霊巡拝に來られることを喜び、それに何よりも日本人として生まれ生きて良かったと、からだ全身から感じとったのでした。

滋賀県遺族会ホームページの開設

遺族会の年間予定、活動情報、遺族会だよりなど、私たちの身近なことから日々ご覧いただけます。機関誌「遺族の友」「日本遺族通信」とあわせて、遺族会活動を広くわかりやすく広報します。ぜひご覧ください。

アドレス：http://www.shiga-izokukai.jp/ 開設年月日：平成23年8月12日

國松善次さん 県内「忠魂碑」211カ所 自転車で巡拝達成

先の機関誌「遺族の友」で掲載された県内すべての「忠魂碑」を自転車で巡拝する滋賀県遺族会顧問國松善次氏が、8月13日夕刻、みたま祭りの境内5200灯の提灯とともに参道両側の多数の参拝者から歓声、拍手、



みたま祭り参拝者から祝福を受ける國松善次さん
(滋賀県護国神社参道)

握手の祝福を受けながら滋賀県護国神社拝殿に到着、巡拝完了の報告式が行われた。國松氏は

①終戦65周年記念
②自転車で琵琶湖一周を25年間続けて来た記念
をめぐり、県内にあつた戦没者慰霊碑をすべて自転車で参拝し、英霊に戦後の日本の

繁栄と感謝の誠を捧げるとともに、今後の平和を祈願し、あわせて来春参詣であつた県立平和祈念館（仮称）のオープン（報告する）ことであつた。
平成22年6月3日 栗東市内をスタートし、毎月各市町を巡拝し、平成23年8月11日彦根市内でゴール。延べ30日、走行距離約1、200キロ、県内全ての忠魂碑は211施設であつた。「忠魂碑」を今一度考えよう
「忠魂碑」に祀られる英霊の心を次の世代に語り継ごうを再認識する良い機会となつた。
(広報 雨森久昭)



豊国忠魂碑を慰霊巡拝のみなさん

町内3碑を巡拝

愛荘町遺族会 前田いそ

戦後66年を迎えた今年、滋賀県遺族会顧問の國松善次氏が取り組んでおられる自転車で県内忠魂碑巡拝の一環として、愛荘町内にある秦莊殉国碑（404柱）、愛知川弔碑（208柱）、豊国忠魂碑（90柱）の3碑（計702柱）で追悼法要を行いました。法要目前には人材センターの協力で碑周辺の葉刈や遺族会当番による草むしり掃除を終え、國松顧問を迎える準備が整いました。終戦記念日が近づき暑い日でしたが、田園風景を見ながら自転車で走り、爽やかな風を受け、爽やかな気持ちになりました。町内の3碑には、たくさんの方にお参りをしていただき、ご住職の読経のもと参拝者一同焼香し、一つしかない尊い命を国のために捧げられた皆さんの分まで、感謝をしながら、元気で、みんな力を合わせ頑張ることを誓い合いました。
豊国忠魂碑前では村西俊雄愛荘町長を迎えて、遺族会要望書を手渡しさせていただきました。
それぞれの法要箇所では國松顧問のお話をうかがい、二度と起こしてはならない戦争、子や孫たちが次の世代に、私たちが伝え続けていかねばならない」と、改めて強く思いました。
國松顧問を迎えた今年の追悼法要に感謝いたします。ありがとうございました。

靖国参拝応募作品

俳句

奥野 きぬ・選

靖国の参道清し春の雪
淡雪や身を引きしめる九段坂
（長浜市）長谷川順二郎
靖国の宮に平和を誓う春
久しぶり夫と春の靖国へ
（彦根市）廣松美代子
春の旅和氣満々の遺族会
念願の叶いて春の靖国へ
（東近江市）内堀甚一郎
古希の春九段の御霊に謝す涙
靖国の森の白鳩春近し
（長浜市）田中千恵子
霊峰の頂き白きなごり雪
久かたにみたまと語る春のたび
（日野町）奥野 義明
ひな祭り靖国で見るとれしよ
靖国へ父が待つ旅春の雪
（彦根市）辻 俊子
靖国の父に母国の花万葉
囀りや御霊に捧ぐ母の声
（草津市）木村正昭

短歌

母坪みち代・選

そば近く父のみたまに語りかけこころ洗わる靖国の宮
大鳥居吹き抜く風はつめたくもこころぬくも参拝の旅
（彦根市）廣松 隆也
靖国の父と語りしひとときの安らかなれと合わせ祈らむ
車窓より富士の姿を仰ぎつつ姉妹の思い父に届けむ
（草津市）福井 敏子
母も亡く老いたる我は靖国に若きままなる父を偲びぬ
（彦根市）藤井 初枝
やよい月無言の父に語りかけむなしくも思う靖国の社
社内そら耳だとは思えない父の御霊に心つらす
（竜王町）大西 初枝
早春の靖国参拝語り合い心ひとつに遺児の結束
昇殿にぬかずき語る再会は心の糧と露の世しのぶ
（米原市）藤田 紀代
靖国の社頭に立てばよみがえる母と見し日の写真の父よ
白髪混じりし我子の姿見て靖国の父安堵すと思う
（彦根市）出口 素子
靖国の桜の蕾まだ固し夫と揃って鳥居くぐれば
父眠る靖国神社昇殿に今年も参り在りし日忍ぶ
（長浜市）飯田 紀代子
険とじ拍手打ちし五才の夏遺骨埋えの宮に今立つ
父在わす離れ寒屋に手を打てば熱き声のみ吾に返り来
（愛荘町）土田 幸夫

町内7地区を巡拝

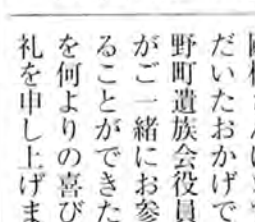
日野町遺族会 会長 岡 俊郎

本年も梅雨に入ろうとしている6月4日、元知事國松善次さんをお迎えして日野町内7地区（必佐、南必都佐、鎌掛、日野、西大路、西桜谷、東桜谷）に祀られている忠魂碑の慰霊巡拝に役員一同参りました。

おかげさまで好天気に恵まれ巡拝させていただきました。自分の地区の忠魂碑は、清掃当番や法要などでお参りしているの場所もわかってはいますが、同じ日野町内でも地区が違ふと何処に忠魂碑があるのか解らない有様であります。

日清日露戦争からの英霊がお祀りしてあり、終戦後の米軍占領下にあつて忠魂碑の場所も移転を余儀なくされ、ほとん

どがお寺の境内に移され永住の場所となつている現状でありました。なかには立派な5mもある石碑に刻み込まれている忠魂碑という文字が消されて、その上に南無阿彌陀仏と書き替えられてある石碑もありません。何を思いながらも当時お国のために戦死された方々をお祀りされている立派な石碑と云い、場所と云い、村中町中がござつて安置され参拝されていたことを偲ぶ昨今であります。とりわけ碑の裏面やその近くには、国のために尊いかけ



日野町鎌掛忠魂碑を慰霊巡拝のみなさん